

みどりのカーテンプロジェクト

今年度も多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。みどりのカーテンづくり活動の中で大変うれしい事は、植え付け指導した生徒が学校以外の場所で会っても「こんにちは」「教えてもらったとおり水をちゃんとあげています」「苗も大きくなっているのでもた見に来てね」と声をかけてくれる事です。7月に朝日新聞で募集のあった「こども環境大賞」作文募集にクラスとして応募頂いた学校が数校あり、審査の結果、大池小学校が団体優秀賞を受賞されました。またゴーヤの種をいただいたJ:COMさんの募集する「みどりのカーテン写真」では、あすなるさんが優秀賞を受賞されました。おめでとうございます。

みどりの学習プロジェクト

みどりについて広く学ぶ視点から、ヒント集の作成、見学会の実施などを行っています。より皆様にみどりについて学んでいただけるよう取り組んでいきますので、たくさんのご参加お待ちしております。

みなさんのご参加
待っています！

花苗プロジェクト

今年度の育苗活動は12月で終わり、育成苗はメンバーの活動地域、学校、ふれあい広場SEEDに植え付けました。これから春先に向けて、花壇の整備、腐葉土作りその他の作業を行います。

SEEDでの活動は月に2回（主に第1土曜日と第3火曜日の午前中で、種まき、育苗（春、秋の年2回）、花壇整備、腐葉土作りなどを行っています。また定例会議は月1回です（蛍池公民館）。

種まき、ポット上げの時は、和気あいあい楽しいひとときです。一度体験参加してみませんか。新しい方のご参加お待ちしております。

地域緑 Book プロジェクト

みどりの活動をされている団体に体験参加して、地域緑 Book を作成しています。「私たちの活動取材してほしい」また「活動を多くの方々に紹介したい」とお考えの団体の皆さん、お知らせください。



豊中みどりだよりは、みんなで、どんどん、りよっか（緑化）しよう！という意味を込めて、豊中市でみどり活動を進められている方に向けて発信するニュースです。



Toyonaka Green Action

特集 みどりのフォーラム



花苗の植え付け体験



竹細工体験



かたつむりのひとりごと
紅葉が美しく色づくには三つの条件があるという。昼間の日差し、夜の冷気、そして水分である。花壇に種をまき花を抱かせて、秋の花は冷間にも耐えて咲く、そのしおらしさと心温かさを伝えてくれる感じがする。花が人の心に伝える、やさしさと温かさになるかもしれない。
寒さが身にしみ、からだにささるように感じることも多くなってきました。冬支度が進んでいくのでしようか。自然の中の紅葉が美しく感じることに思います。もみじの葉が美しく見える荘厳さ。寒さと美しさを感じるのは私だけでしょうか！もう一度心を自然の気持ちに戻してみませんか。



3・11の東日本大震災と原発事故で被災され、緊急避難された方々がまだ故郷に帰れないで新年を迎えた苦しさを理解し、私たちにできる支援活動をしようではありませんか。
さて2011年度は多くの方々みどりのカーテンづくりに取り組んでいただきましたが、種から育てる学校も多くなり自分たちで育てたゴーヤを食する楽しさを学んでいただきました。
広げようみどりの和、人の輪として活動も年々大きく広がっています。大池小学校のこども環境大賞団体優秀賞おめでとうございました。本年もよろしくお願いたします。
(入江)

編集後記

豊中みどりの交流会 全体会議のご案内

- 日時：平成24年2月26日（日） 10:00～12:00
- 場所：花とみどりの相談所（豊島公園内）
- 内容：話題提供 意見交換会 ほか



豊中みどりの交流会 2011『みどりのフォーラム』を開催しました！

- 「つなげよう「みどり」の和」をテーマに10月30日、豊中駅前すてっぷホールで開催しました。おかげさまで、128名の入場者があり、盛況のうちに終えることができました。
- ▼基調講演：吉岡 聡司さん（大阪大学大学院助教）「大学キャンパスと地域のみどり」
- ▼事例発表：大阪府池田土木事務所、豊中みどりの交流会、豊中市立刀根山小学校、豊中市
- ▼パネル展示：市内小学校（28校：東豊中・豊島北・寺内・克明・緑地・新田・北丘・原田・小曾根・桜塚・中豊島・東丘・豊島北条・新田南・蛍池・庄内・箕輪・桜井谷・島田・西丘・刀根山・大池・豊南・豊島西・上野・庄内西・野田）原田保育所、豊南保育所、ゆたか保育園、ひかり保育園、聖マリア幼稚園、豊中自動車教習所、パナホーム（株）豊中緑化リーダー会、NPO法とよなか市民環境会議アジェンダ21、リサイクル工房竹炭塾、千里竹の会親和自治会、上野連合花壇同好会、なにわエコクラブ、豊中駅前まちづくり推進協議会、親栄自治会豊中親和会みらい、豊中親和会第2みらい、豊中愛和会あすなる、豊中きらら福祉会きらら作業所、幸楽の里三ツ池台マンション管理組合、大阪府池田土木事務所、くらしかん、東豊中老人支援センターリサイクル交流センター、豊中市消防本部、豊中みどりの交流会、豊中市（順不同）
- ▼体験コーナー：花苗の植え付け体験、竹細工体験

特集：みどりのフォーラム

基調講演『大学キャンパスと地域のみどり』 概要

1) 北摂広域・豊中市の緑における阪大キャンパスの位置づけ

北摂広域でみると、箕面の国立公園や万博公園、服部緑地等のみどりが点在している。それらが生態回廊（生き物のネットワーク）として、つながっていかねばならないと言われている中で、阪大豊中キャンパスは豊中市の隅石を押さえているような位置づけであり、生き物のつながりを考えていく上で重要である。行政では、豊中市による環境基本計画や大阪府による緑化推進事業が進められているが、阪大では、農学部がないので吹田キャンパスに隣接する「自立した森再生センター」との連携がとれておらず、今後の課題だと考えている。



2) 大学キャンパスと緑

阪大キャンパスをとりまく緑としては、待兼山、中山池、豊中景観100選に選ばれたイチョウ並木があげられる。待兼山には豊かな生態系が保全されており、調査や環境学習のフィールドとして利用しているが、里山の植生を維持していくためには、適正な管理を行うことも必要である。また、キャンパスは学生が快適に過ごせる環境でなければならないので、都市公園のような整備を行うこともある。他大学では、独自の方針でキャンパス内の緑を維持管理しているが、大阪大学では今年、「緑のフレームワークプラン」を策定し、緑をめぐる様々な問題を考える契機とした。緑の維持管理方針を見直すほか、キャンパス内のイベントに地域住民や学生、大学職員が連携して取り組むことをめざす。

3) 地域や大学をつなぐ緑の活動

阪大で取り組まれている具体的な活動例をあげると、待兼山での植物探検隊や大学の基礎セミナーとして行っている中山池周辺の間伐体験、柴原町の竹林整備や環境サークルによるゴーヤのカーテンづくりなどがある。これらの活動に取り組む上では、地域住民の方々の協力や子ども達との交流が欠かせない。



4) 地域の様々な資源や記憶をつむぐ緑

過去にあった豊かな緑を取り戻すためには、環境学習などを通して感じた緑の良さを一人ひとりがそれぞれのフィールドで伝え、緑の活動を広げていく必要がある。地域内の花壇づくりや清掃活動に取り組むなど、自らの手で緑の空間を作り上げることで緑に対する意識が高まるのではないかと。また、地域に残存する伝説を大切に、それをとりまく緑を保全していくことも重要であり、今後、多様な人が多様な手法で活動展開していくことが望まれる。

よしおか さとし

● 吉岡 聡司さん（大阪大学大学院工学研究科助教・一級建築士）
大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻を修了し、(株)昭和設計にて、主に官庁物件の意匠設計・計画を担当。平成12年から、吉岡一級建築士事務所を主宰。現在、大阪大学キャンパスデザイン室助教として教鞭をとる。



『緑のカーテン作りに取り組んで』 刀根山小学校

2011年度から新しくなった4年生の理科の教科書(大日本図書)には、「ツルレイシ」という名前でゴーヤが取り上げられ1年間を通して育成する教材として紹介されています。本校では、それに先だって2010年度から豊中みどりの交流会の方たちの紹介でゴーヤを取り上げ、4年生の環境について学ぶ総合学習の一環として「緑のカーテン」づくりに取り組んでいます。

緑のカーテンを育てる6つのプランターは、運動場南側に面した保健室前に据え付けられています。6月から育て始めた緑のカーテンは、今年も7月、8月の南からの強い日射しをしっかりとガードしてくれました。

6月9日に、交流会の方たちがゴーヤの苗や肥料を持って植え付けの指導に来てくださいました。一つのプランターに3株ずつ植え付けました。苗の周りに溝を作って肥料を入れ水をたっぷりとそのぎました。「じょうろで水をやるのがこつ。何杯やったかすぐわかる」と。「水やりをしっかりとやったかどうかで、8月、9月の葉の茂り方が全然違う。またしょっちゅう来るから続けてや」とアドバイスをいただきました。

6月、7月、観察しながら水やりを続けました。どんどんツルが伸びてきました。葉の数もどんどん増えてきました。黄色い花も咲き、実もなり始めました。目標の一つ目は、3階の図書館までツルを届かせること。もう一つは、9月までに4年生120人子どもたち全員がゴーヤを1本以上持って帰れるまで育てることでした。

6月、7月は子どもたちが毎日入れ替わりながら水やりを続けました。8月は、先生たちが中心になって水やりをがんばりました。夏休みのプールに来た人たちに、まずは収穫したゴーヤを持って帰ってもらいました。

2学期を迎えた9月も、まだまだ葉っぱは緑色。まだまだかかと待っていたゴーヤの収穫も10月にはいるまで毎日のように続きました。

図工の時間、画用紙にゴーヤの葉っぱや実を観察しながら絵に描きました。12月になっても4年生の教室前のろうかには、子どもたちが描いた緑のカーテンが残っていました。



『緑のカーテンプロジェクトのみなさんへ』 子どもたちの感想から

◆いただいたゴーヤのジャムは、最初は甘かったけれど最後の方はにがくなりとてもおいしかったです。ジャムはオレンジ色と透明でした。レモンとさとうで味付けしたそうです。赤いゴーヤ6本分で作ったと聞きましたが、コップ半分にもならないくらいでした。ありがとうございました。

◆ゴーヤと一緒に育ててくださってありがとうございました。私はゴーヤを初めて育てて、初めて食べました。そして、白いゴーヤがあると知りました。おいしいゴーヤのジャムも作ってくださって本当に楽しい体験ができました。来年もひろった種で、すずしい夏をすごしたいと思います。

◆ゴーヤと一緒に育ててくださってありがとうございました。わたしたちは図工の時間にゴーヤの葉や実をかきました。ゴーヤのたねをひろっておばあちゃんにあげました。

◆緑のカーテンのお手伝いをしてありがとうございました。ゴーヤのジャムもおいしかったです。少し苦みもあっておいしかったです。私は夏休みのプールの後に、ジャンケンでゴーヤと白ゴーヤをもらいました。家でゴーヤチャンプルを作ってもらいました。みんなで育てたからすごくおいしかったです。夏のほとんどは、ゴーヤがメインでした。

◆私はゴーヤジャムが思い出に残りました。最初食べたときはあまくて、後からちょっと苦かったけどおいしかったです。ゴーヤの植え方などを教えてもらってうれしかったです。

◆私はゴーヤが苦手な人で、育てるのは少しいやでした。でも、種が落ちてのを見たり、ゴーヤの実の色が変わっているのを見て「おもしろいな」と思いました。一度学校で小さいゴーヤをもらって私は苦手だから実をつくえの上に置いていました。すると、実がオレンジ色になって実が割れました。それから種を取ってかわかしました。来年植えてみようと思っています。ゴーヤジャム、少しにがかったけど食べられました。すごくおいしかったです。ありがとうございました。

『フォーラムに参加して』

第6回豊中みどりのフォーラムに参加させて頂き、みどりを愛する市民の皆様の熱い思いや、活動の輪が着実に拡大していることを実感させて頂きました。特に、市内28校で取り組まれたみどりのカーテンでは、子供たちが環境や生物に興味を持つとともに、大人では思いもよらない新たな発見をしていることを聞き、みどりの良さを再認識したところです。

大阪府も、環境の改善と都市の魅力向上を目指し、みどりを守り増やす施策の推進に力を入れています。今後、地域に根ざした活動を展開されている市民の皆様とより一層連携し、多くの方々に愛されるみどりづくりを目指していきたいと考えています。
(大阪府池田土木事務所都市みどり課 田中主査)

受賞おめでとうございます

豊中市立大池小学校が「みどりのカーテンづくり」で『第4回こども環境大賞 団体優秀賞』を受賞されました。

「こども環境大賞 団体優秀賞」受賞

～命をつなぐ「みどりのカーテンづくり」を通して～

豊中市立大池小学校長 服部 宏 仁



「ゴミ処理」や「水の浄化」などの環境に関する学習とともに、ゴーヤを種から育て、「みどりのカーテンづくり」に取り組んだ4年生が「こども環境大賞」に応募し、栄えある団体優秀賞を受賞しました。

本校が「みどりのカーテンづくり」に取り組み3年目を迎えました。今年も、豊中みどりの交流会、豊中緑化リーダー会、豊中駅前まちづくり推進協議会等の皆さんから、ゴーヤの育て方を学んだ4年生は、昨年の4年生から引き継いだゴーヤの種「命」を植え付けました。子どもたちは、毎日、水をたっぷりやり、「ここまで伸びたよ」「黄色の花が咲いたよ」「ゴーヤの赤ちゃん見つけたよ」と観察しながら大切に育てました。ゴーヤはぐんぐん成長し、やがてみどり鮮やかなカーテンとなり、たくさんの実を

つけました。夏休みには、ゴーヤの詩づくりや収穫したゴーヤの料理にもチャレンジしました。

また、「大池夏まつり」では、収穫したゴーヤのお店を開きました。値段を決めたり、ラッピングしたり、お店を飾り付けたりした子どもたちは、「おいしいよ」「私たちが育てたゴーヤは、いかがですか」と大きな声を出しながら売りました。売りあげたお金を東日本大震災の支援に使うことを決めた子どもたちは、購入した文房具を小分けし、それぞれに手紙を添えて福島県の小学校に送りました。

本校では、「みどりのカーテンづくり」を通して環境問題を考える機会とするとともに、収穫する喜びや、命や心

をつなぐ活動に発展させています。みどりのカーテンづくりを指導していただいた、豊中みどりの交流会の入江さんの紹介により、環境問題に対して関心が高まっていた子どもたちが学習のまとめ・発展として作文につづり、「子ども環境大賞」へ応募しました。

今回の受賞を機会に、今年収穫したゴーヤの種「命」を次の4年生に引き継ぎながら、身近なエコ活動や、自然や命を大切に作る活動へとより発展させていきたいと考えています。これまで、ご支援いただきました地域、関係の皆様にも心より感謝申し上げます。



【こども環境大賞】未来を担う子どもたちに、大切な環境についてもっと関心を高めてもらうために実施されている、エコをテーマにした小学生の絵・作文のコンテスト。

◆主催：朝日新聞社 ◆共催：東京海上日動

◆後援：文部科学省、環境省、全国都道府県教育委員会連合会、全国特別支援学校長会、全国連合小学校長会

◆協力：朝日小学生新聞